

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

蜀素帖 米芾



1、字句||重九會郡樓
2、形式||半紙タテ使用。右に「重九會」、左に「郡樓」と二行に臨書し、余白に落款「○○臨」と調和を工夫し書き入れる。

3、概観||「蜀素帖」のひとつの特徴として行の変化があげられます。次頁掲載の「有」からの行では、「有」は左に寄って書かれ、「後群」と少し右に移動し、「賢」で更に右に寄るが、「畢至猥」と左に、「居前」は右に移動しています。野線が引いてあるにもかかわらずこのような動きは少し異質にも思えますが、この行では、「賢」と「畢」の書き方が特徴的です。「賢」で右に寄せたものを「畢」で左へ一気に展開する。違和を感じさせないのは「賢」の二画目、「貝」の一画目、これが「畢」の長縦画に繋がっているからではないでしょうか。しかもこの縦画を八画目の横画から右に曲げています。この動きが左に寄せながらそれを感じさせないのです。実に巧妙に書かれています。

4、各字のポイント

重 中央縦画は最後に書くが、二画目横画左二に対して右一のところ

に。横画は全て同じ方向に。

九 二画目収筆は少し上げる。

會 一画・二画は細線で伸びやかに。浮沈用筆に注目。

郡 一画目転折から垂直に。以後軽いタッチで。旁、懸針以外は押す

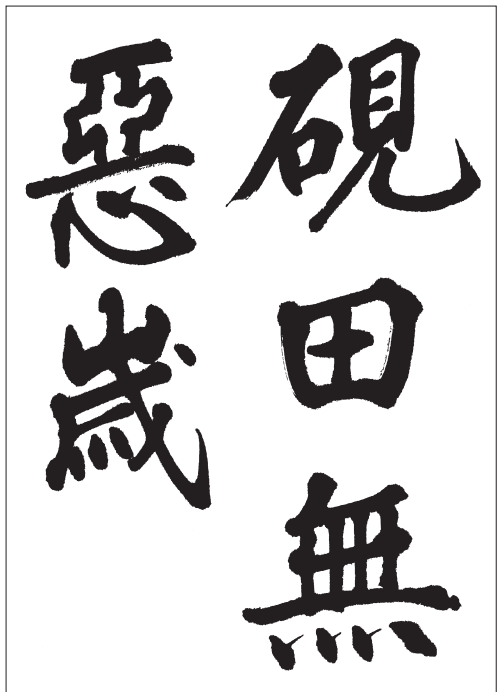
用筆。

樓 一画目すくい上げ、二画目右に寄せ頭を多く出す。旁は「ㄣ」ま

で書き縦画。

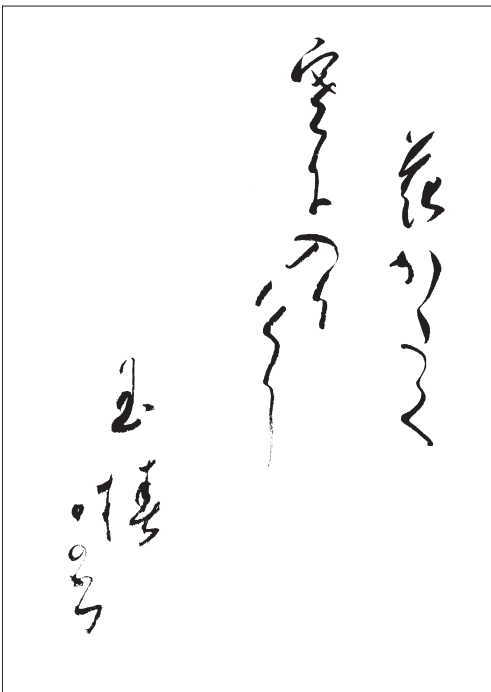
半紙課題(予告) (一月二十二日締切)

平岡華雪先生書 硯田無し(唐庚)



訳：同じ田といっても硯の田には飢饉はない。

平岡華雪先生書 花かたく寒に入りけり玉椿(冥々)





紅茱滿泛船 千里結言寧有後 群賢畢至猥居前
(黃菊) 紅茱泛船に滿つ 千里言を結ぶ寧ぞ後る有らん 群賢畢く至るに猥に前に居る
(黄色の菊と) 赤い茱萸は舟にいっぱいである。千里を隔ててもどうして約束に遅れることがあるうか。立派な人たちが集まる中やたらと前に出てみる。

※随意部参考(半紙・条幅)としてもご活用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

一字書(十二月二十二日締切)

課題

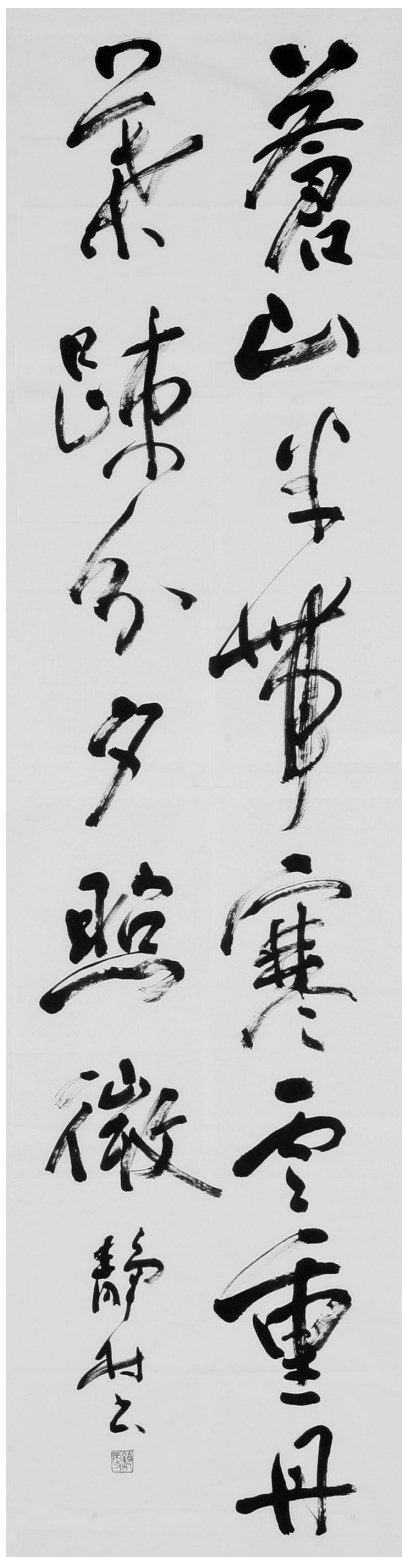
筆

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ・ヨコ自由
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
一字と記入 段級は無記入

A

鈴木静村先生書

蒼山半帯寒雲重 丹葉疎分夕照微 (林通)
蒼山半帯寒雲を帯びて重く、丹葉疎にして夕照を分ちて微なり。



B

高橋香樹会长書

純羊毫の長鋒筆を使って、今回使用の筆は、純羊毫の長鋒(鋒7cm)。使い込んでいないが、濃墨をたっぷり含ませたその集毫力は普通の筆では到底味わうことはできない。入筆の際の止め筆で感得できる弾性(バネ)の感覚は、柔らかい筆毛だからこそその実感であろう。ぜひ各位も長鋒の源性を味わってほしい、奨励したいと思います。全体的には細めの表出。直筆感鋒の基本用筆はあくまでも遵守。墨継ぎは雲と夕。



久し振りに楷書作とした。六朝の楷書を意識して書いてみました。起筆は九十度に近い角度で入筆し、横画は右肩上がり強く、収筆は上にハネ上がるか下に抜く。転折は一画書くぐらいのつもりで。「帯」は古典にこの形があります。「疎」は古典ではこの形が多い。字典にあたりたい。

訳：青い山に寒そうな雲が半ば重くかかり、まばらに紅葉した葉の間に夕日が見えてともに赤い。

予告 (一月二十二日締切)

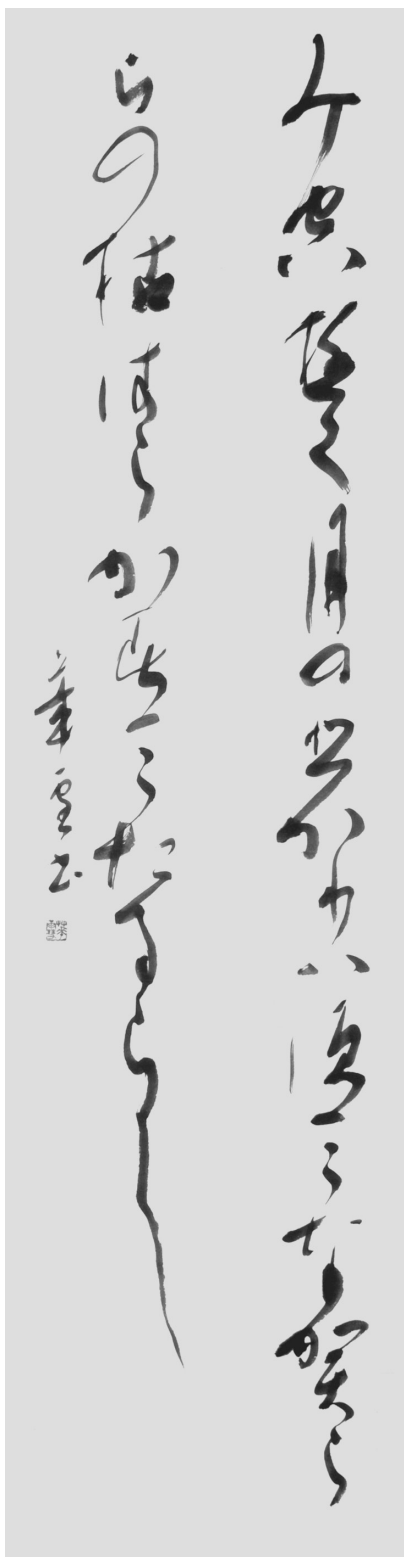
松下問童子 言師採薬去 只在此山中 雲深不知處 (賈島)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

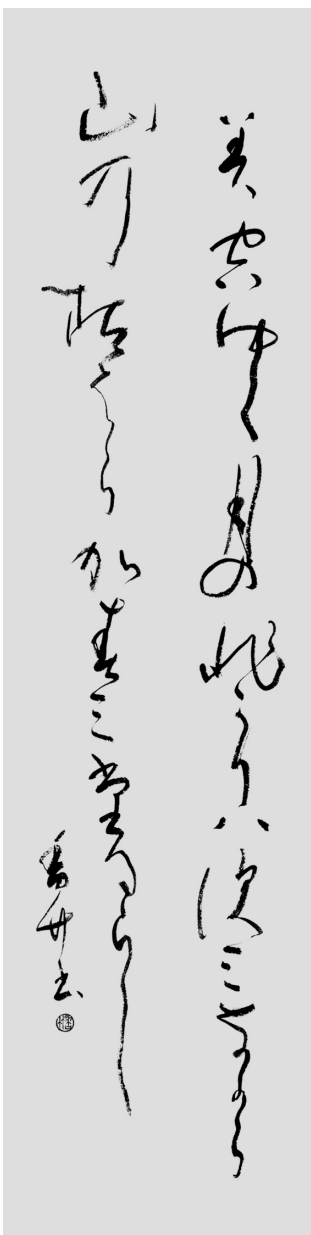
み空ゆく月の光は澄みながら山の枯原かすみたるらし(土田耕平)
み空遊久月の悲か利八須三奈賀ら山の枯はらか春三たるらし



B

青柳香竹先生書

み空ゆく月の非可り八須三奈可ら山乃枯者ら加春三堂るらし



学び方

華雪先生の書は筆先の妙、太い強い線そして細く鋭い線、自由自在に動かし変化のある作品になっています。
B、一行目の書き出しは墨がたっぷり小さく、次に幅を取ります。「須三奈可ら」で幅を細くしていき、二行目で動きを大きく伸びやかにします。最後の五句で墨を含ませ、右行に寄せて収めます。行間を考えて書きましょう。連綿線は弛まないことが大切です。

予告 (二月二十二日締切)

わが窓の晴もくもりもあめかぜもまた一年のはじめなりけり(清水比庵)

土田耕平 明治二十八年(昭和十五年長野県諏訪出身。十八才で「アララギ」に発表し、歌道専心を志す。大正四年療養の為伊豆大島に渡る。大島での孤独な生活の間の作品が清澄純粹な作品として注目された。「伊豆大島にて詠める」と扉に記している。他は「青杉」「斑雪」など。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目が数字を記入する。出品料540円)

条 幅 部 随 意 参 考

高橋紫芳先生書

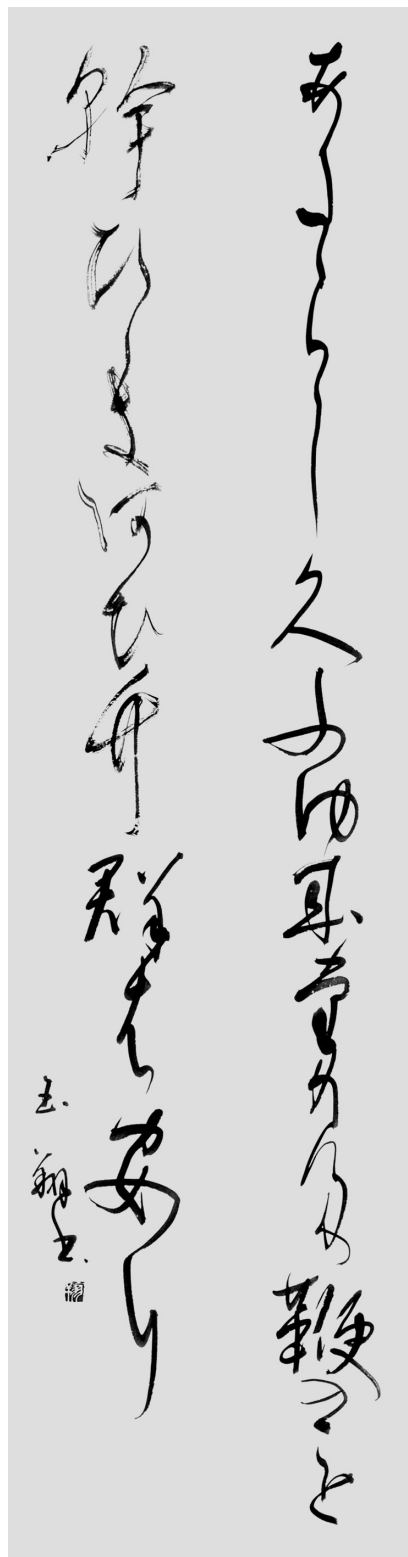
連天斷雁初沈日
 匠地寒花欲有霜
 (黄潜)
 連天斷雁初沈日
 匠地寒花欲有霜
 (黄潜)
 天に連なる断雁初めて日と沈み、地を匝る寒花霜あらんと欲す。



訳：夕日の沈むにあたっては天に群行する雁もきれぎれになり、霜降らんとするに際しては地一杯に菊が咲いている。

福田玉翔先生書

あたらしく冬きたりけり鞭のごと幹ひびき合ひ竹群はあり
 (宮柊二)
 あたらしく久ふゆ来堂利介利鞭のごと幹ひびき合ひ竹群者安り

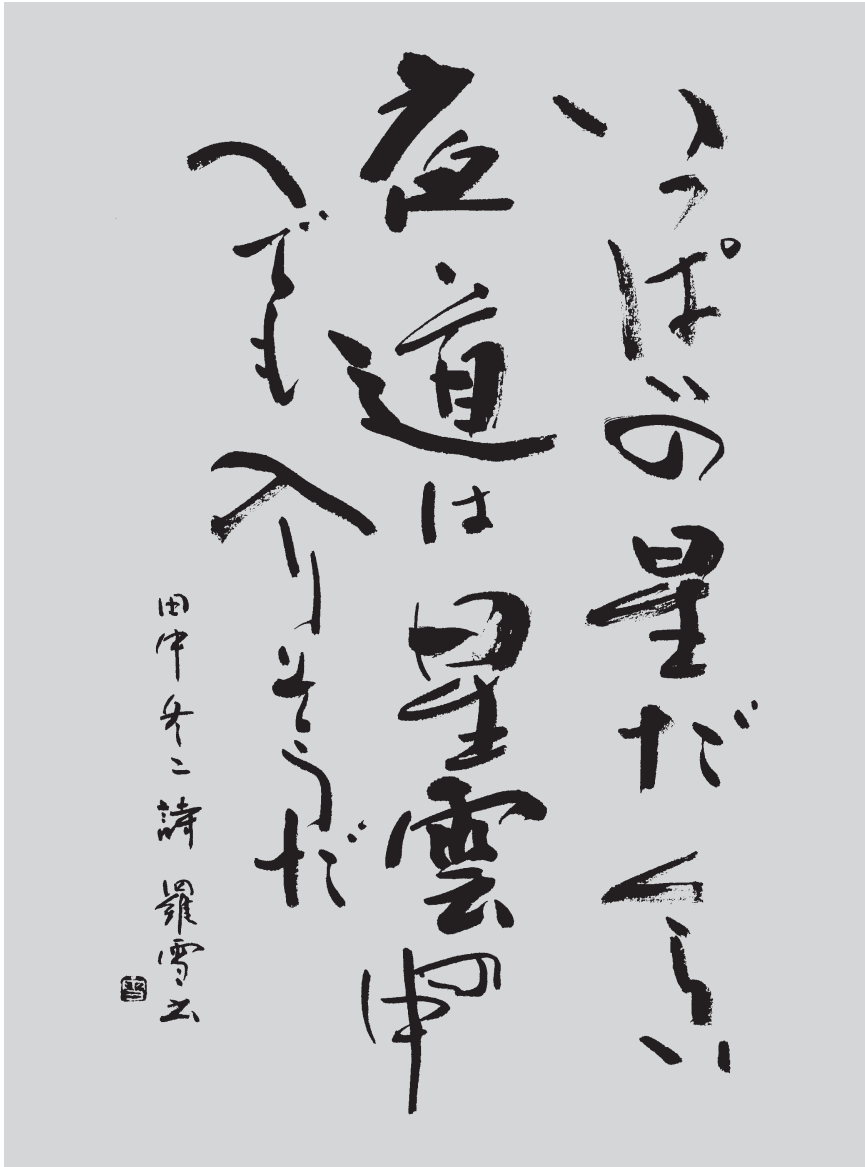


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

杉浦羅雪先生書

いっばいの星だ くらい
夜道は星雲の中へでも入
りそうだ
詩集『青い夜道』より

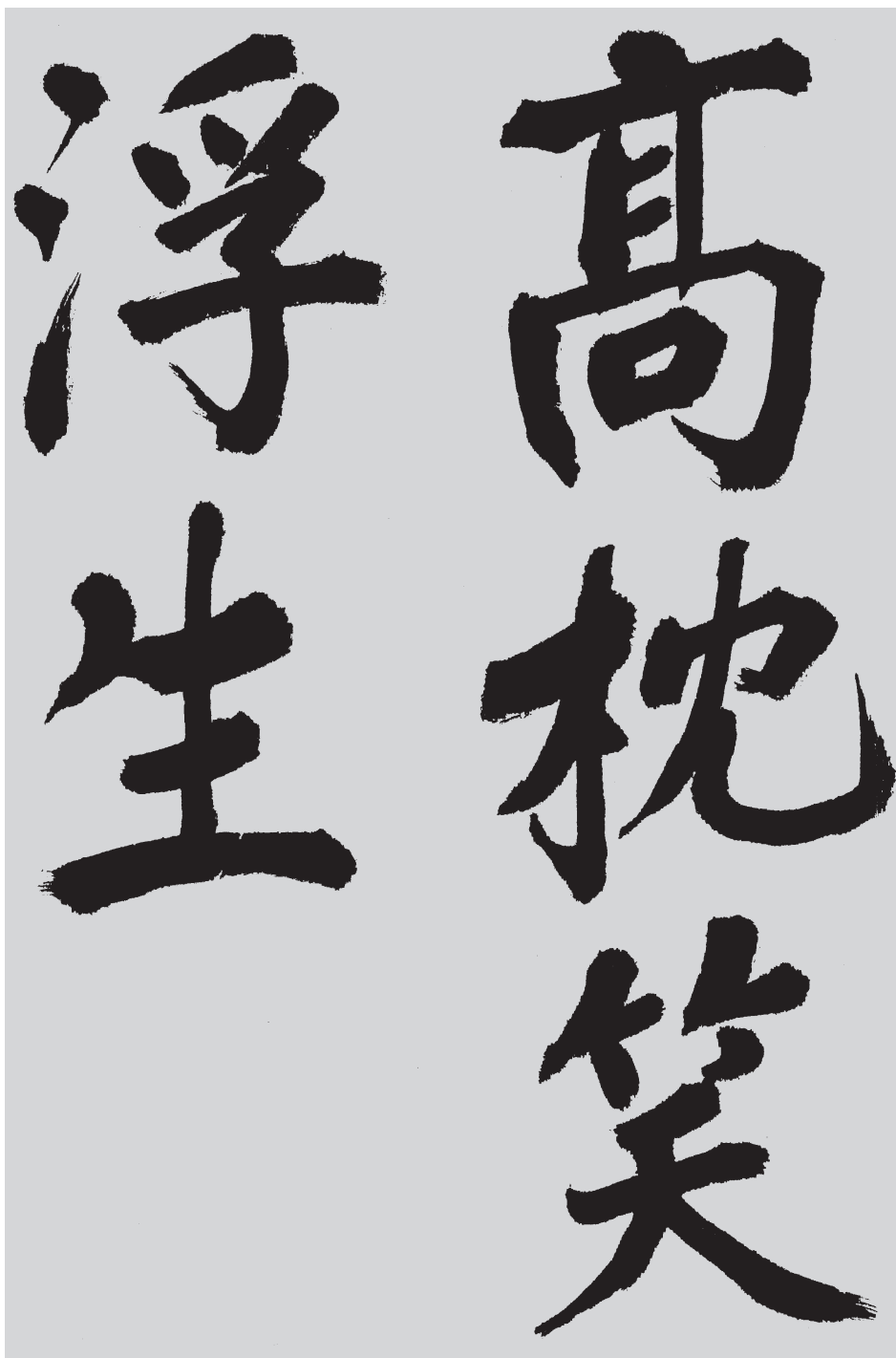
この『青い夜道』には続きがあり、「…とおい村は青いあられ酒をあびて
いる。」と続き、星空の青い夜道をひとり歩いて帰る少年の姿が想像されま
す。状況を思いうかべ、手本にとらわれず、自由に書いてみて下さい。



田中冬二 福島県生
本名 吉之助
1894年～1980年
旧制立教中学校（現
立教池袋高等学校）
卒業。銀行勤務の傍
ら詩作に励み、郷愁
をテーマに旅を課題
とし、自然や日常生
活を初々しく表現し
叙情詩を書く。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

枕を高くして浮生を笑う(杜甫)
訳：風流を楽しんで俗な人生を笑う。

〈横画のそらせ〉
「俯仰」は、横画が重なる場合、上にそらせ、下にそらせる手法をとり入れ、一字をいきいきとさせます。特に、上へのそらせがポイント。軽くすっきりと。



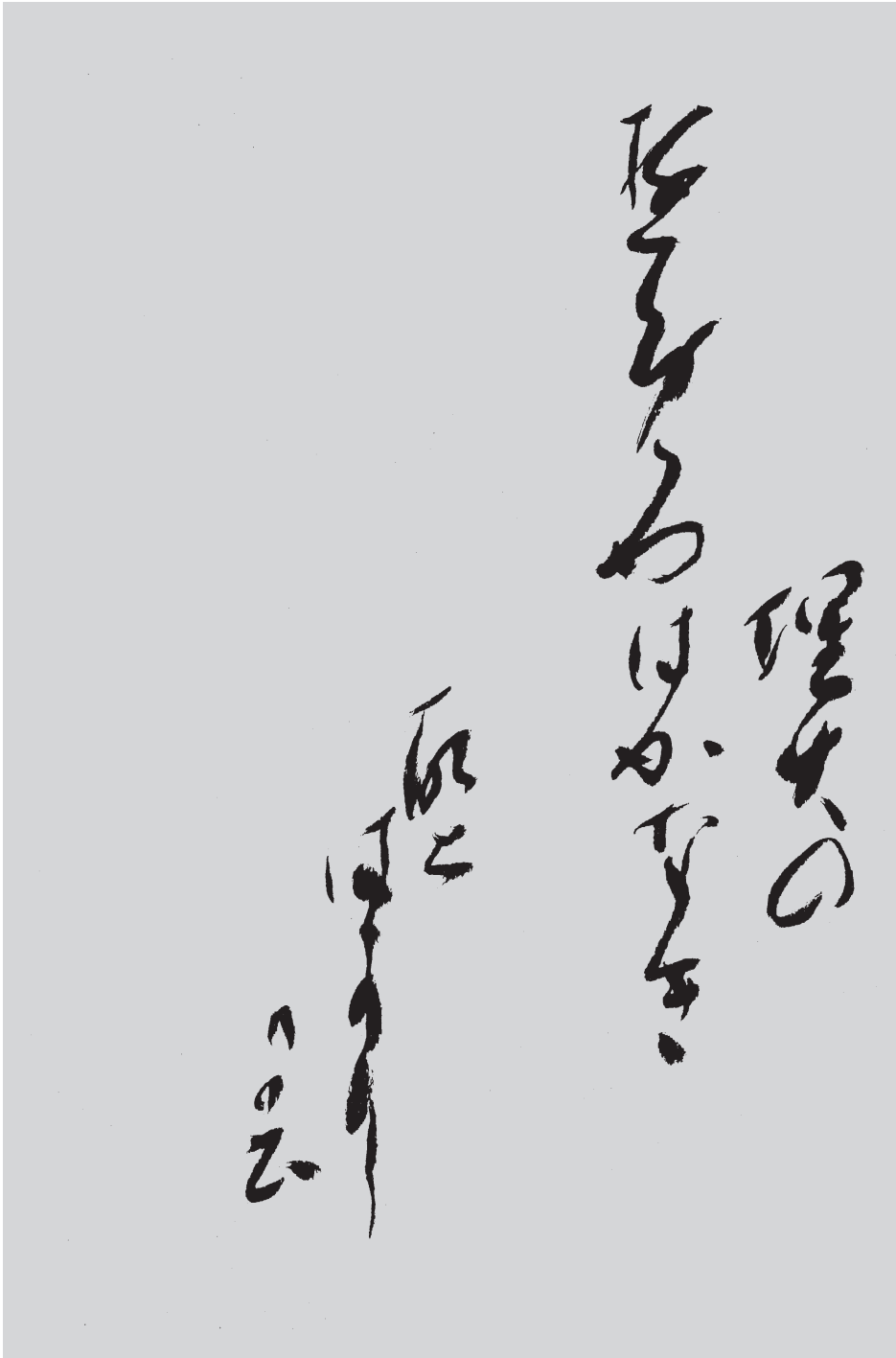
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

埋火の遊免やはかなきことばかり (子規)
埋火の遊免やはかなき故とは可り

〈特に初歩段階〉
「遊免や」この変体がなの表出は夢のイメージを想わせ、最も私が好む部分。
一般的には「故」で墨継ぎ「は可り」を「と」に添え伸びやかな収め。落款は
雅印を予測して配字してほしい。



◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

酒井香雨先生書

何處得秋霜（李白）
いずれいずのところ処にか秋霜しゅうそうを得たる

何處得秋霜
何處得秋霜
何處得秋霜

香雨
書

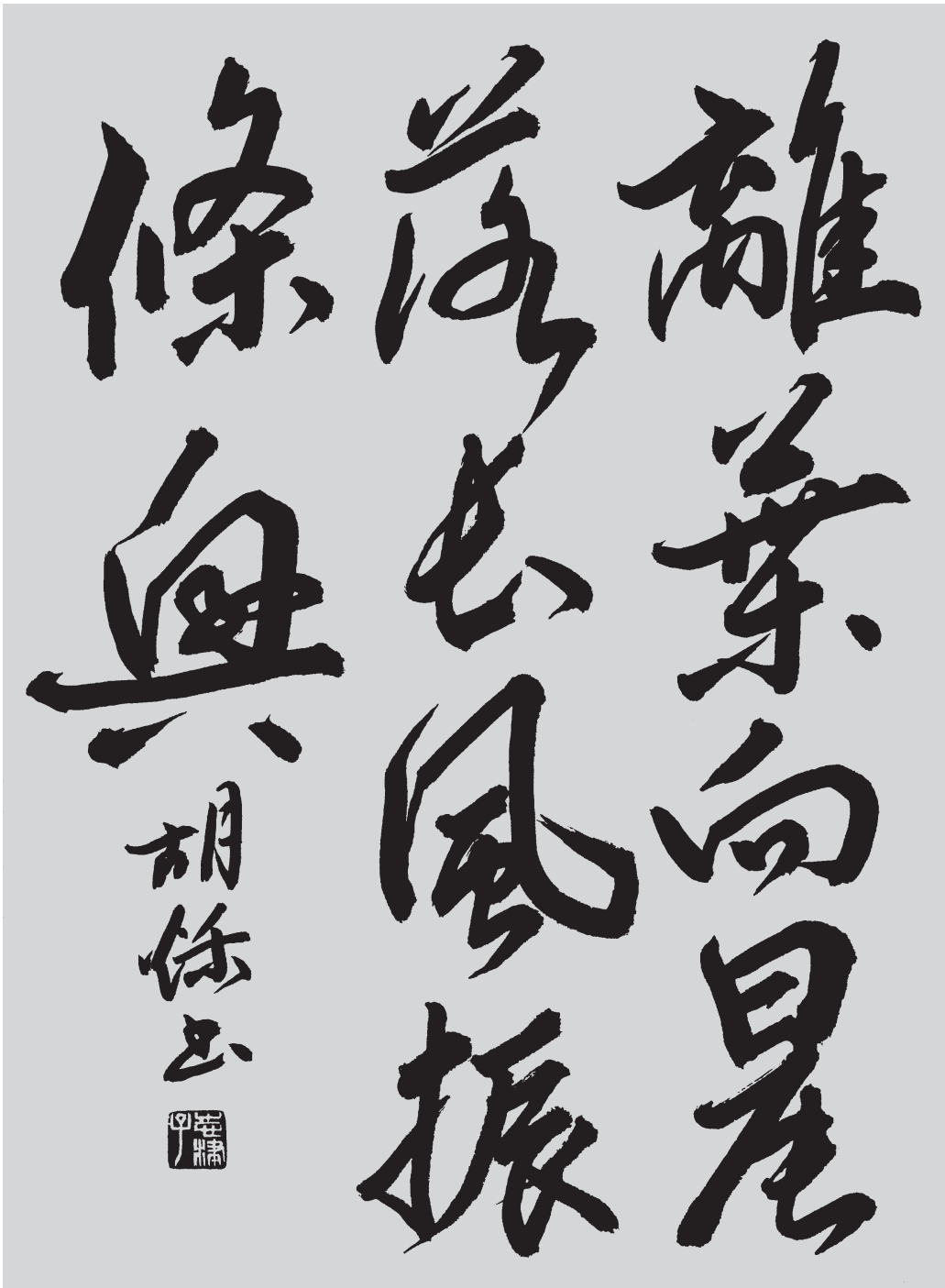


訳：この真っ白な秋の霜は、どこから降って来たのだろうか。

1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は430円。

田中胡秋先生書

離葉向晨落 長風振條與（曹毗）
離葉晨に向つて落ち、長風条を振うて興る。



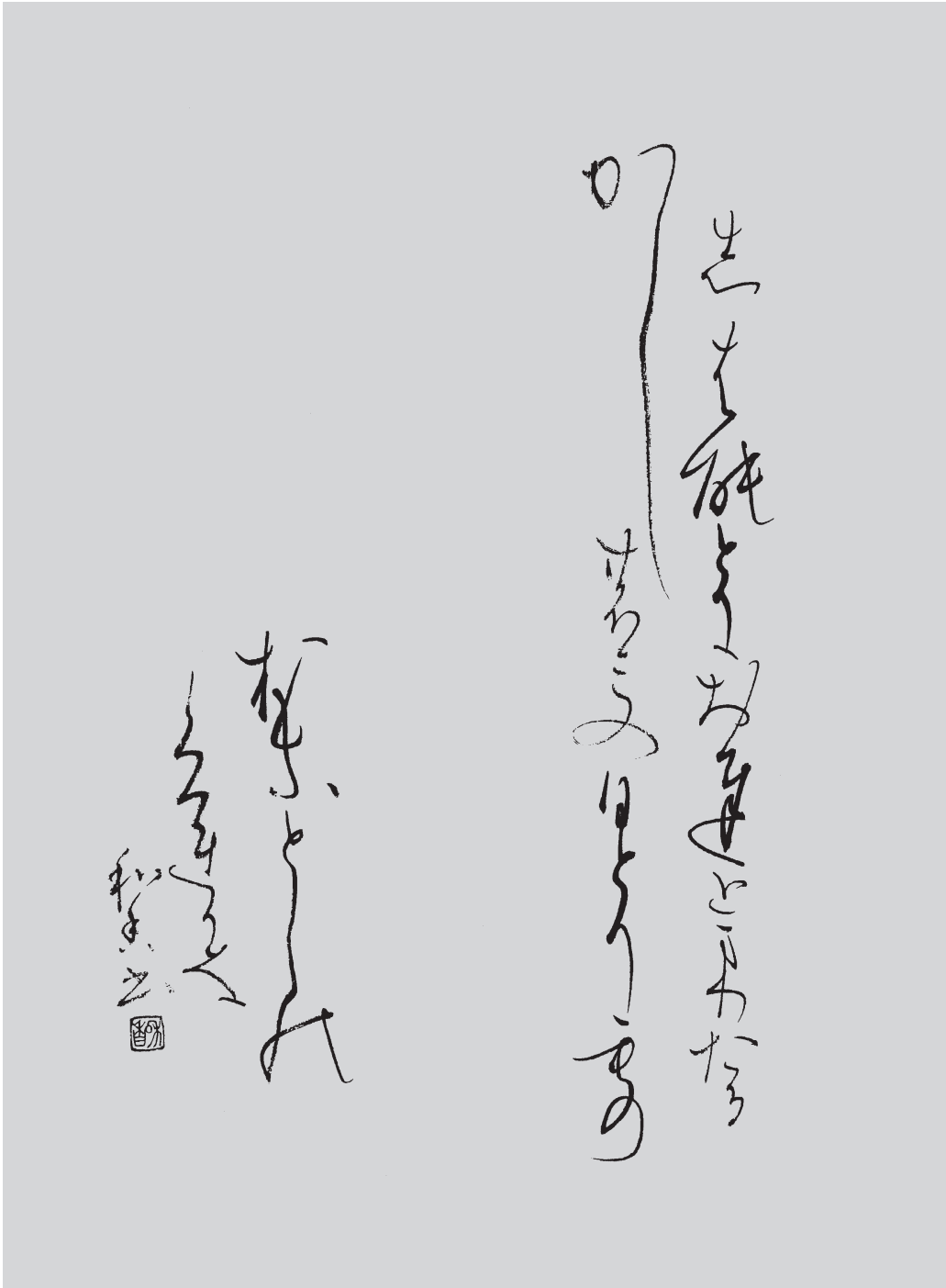
訳：枝を離れる木の葉は夜明にばらばらと落ち、遠方から吹きくる風は枝をふるわして起った。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

随 意 部 参 考

小林和香先生書

柴の戸に落ちとまりたる櫛の実のひとりもの思ふ年の暮かな（太田垣蓮月）
志者能と尔お遅と万利たるかし農三の日とり毛の於もふとし能久連可奈



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

川上香蓉先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

冬の海には夏の海のような爽快感は
ないが、ゆっくり血潮を掻き廻すような
暗い魅力があった。

つめたい風が避けようもなくやって
来て、枯葉が逃げるようにころがっ
て行く。おさえても髪は乱され、コー
トに寒さが吹きつける。
来て、林業が逃げようようにころがっ
て行く。おさえても髪は乱され、コー
トに寒さが吹きつける。

課題1 (初段階以上)

つめたい風が避けようもなくやって
来て、枯葉が逃げるようにころがっ
て行く。おさえても髪は乱され、コー
トに寒さが吹きつける。

「見なれた町に風が吹く」 山田太一

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円
- (6) 昇試規定は裏表紙を参照の事。

課題2 (初段階以下)

冬の海には夏の海のような爽快感はないが、ゆっくり血潮を掻き廻すような暗い魅力があった。

「波の虹」 黒岩重吾